

出題分析		
試験時間 60分	配点 150点	大問数 5題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>例年通り大問5つで構成され、設問数も昨年と変わらなかった。時代については、昨年に比べて古代史や近現代史からの出題が増加した。また、昨年と異なり20世紀以降の内容のみで構成された大問があった。地域については、昨年に比べてヨーロッパに関する出題が減少した一方で、宋代や元代に関する中国史が3年連続で扱われた。出題形式は、例年通り大半が誤文選択問題であった。明らかに誤文であると判断できる選択肢が多く、昨年のような判断に迷う難問も少なかったため、全体的な難易度は昨年に比べてやや易化したといえる。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	古代オリエント史	③. d : ヤハウエの神殿は、ダヴィデ王の次のソロモン王が建設したとされる。④. b : アッシリアが服属していたのは、リディアではなくミタンニである。⑥. a : アケメネス朝の発祥地であるファールス地方は、イラン南部に位置する。	標準
II	近代フランス史	①. a : 「ドイツ国民に告ぐ」の講演を行ったのは、ハルデンベルクではなくフィヒテである。③. やや難問。c : 「ラ＝マルセイエーズ」は、第三共和政期の1879年に正式な国歌となった。なお、国民公会が制定した1793年憲法は、内外の政情不安により実施に至らなかった。⑤. d : 大陸封鎖令は、イギリスとヨーロッパ大陸諸国の通商を禁止した。	標準
III	現代ヨーロッパ史	③. c : マーシャル＝プランは、ヨーロッパ諸国に対するアメリカ合衆国による経済復興計画であるため、日本は対象外である。④. やや難問。c : 労働党のアトリー内閣のもとで、すべての人々を対象とする無料の国民医療制度が創設された。⑥. a : 西ヨーロッパ連合条約に加盟したのは、イギリス・フランス・ベネルクス3国である。	標準

IV	インド史	①. c : カビールはイスラーム教とヒンドゥー教の融合をはかった。③. 消去法も使いづらく, 判断に迷った受験生が多かっただろう。b : トゥグルク朝の領域を資料集などで正確に把握していれば, グジャラート地方がイスラーム王朝の支配下にあったと判断できる。④. d : ムガル帝国期の北西インドで反乱を起こしたのは, シク教徒である。⑥. d : ローラット法は逮捕状なしの逮捕や裁判なしの投獄を認めて反英運動を弾圧した法律である。なお, 1919年インド統治法では自治は実現せず, 州行政の一部にインド人を参加させただけであったが, 1935年インド統治法によって州の自治が認められた。	標準
V	中国史 (宋代～元代)	イ. 五代の王朝は, 後梁→後唐→後晋→後漢→後周の順である。また, 洛陽を都とした後唐以外の4王朝は, いずれも汴州(開封)が都であることも覚えておきたい。①. 詳細な知識が必要だが, 消去法でも解答可能。b : 官戸には労役免除などの特権が付与されたうえ, 土地を買い占めて営利事業を行うことも可能であった。②. a : 宋(北宋)が中国本土の統一を達成したのは, 太宗の時代である。⑥. d : 『三国志演義』は元末から明初にかけてつくられた作品で, 『金瓶梅』は明末の作品である。	標準

合格のための学習法

関西学院大学の誤文選択問題は, 史実として誤っている選択肢の内容が比較的易しく, 史実として正しい選択肢の内容は詳細な知識が求められるというのが, 例年の傾向として特徴的である。誤文である選択肢を素早く見抜きつつ, 消去法でも解答できるようにする必要がある。そのため, 日頃から用語集や資料集を活用し, 細かな用語や事象にも注意を払いながら学習しなければならない。また, 昨年に比べて古代史や近現代史からの出題が増加したため, 特定の時代に偏ることなく満遍なく学習しておきたい。特に, 宋代～元代の中国史のほか, 以前に頻出であった古代ギリシア史などは, 過去問演習を通じて万全の対策をしておきたい。